

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	学部設置										
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オウピリンガクエン 学校法人 桜美林学園										
フリガナ大学の名称	オウピリンダイガク 桜美林大学 (J.F. Oberlin University)										
大学本部の位置	東京都町田市常盤町3758番地										
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。										
新設学部等の目的	教育探究科学群は、教育学の豊かな知見に基づき、人間のかつ社会的な諸課題を学術的探究方法によって解決できる知識及び技能を修得し、人や組織の成長のためにリーダーシップを発揮できる人材を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	教育探究科学群 [College of Education and Social Transformation] 教育探究科学類 [Department of Education and Social Transformation]	年	人	年次人	人	学士 (教育学) 【Bachelor of Education and Social Transformation】	令和5年4月 第1年次	東京都町田市常盤町 3758番地			
	計	4	150	—	600						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	教育探究科学群 教育探究科学類〔定員増〕 (150) (令和4年3月認可申請) リベラルアーツ学群〔定員減〕 (△50) (令和4年3月認可申請)										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	教育探究科学群 教育探究科学類	講義	演習	実験・実習	計	124 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手		
				人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	教育探究科学群 教育探究科学類			5 (4)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (10)	0 (0)	22 (6)
		計			5 (4)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (10)	0 (0)	— (—)
	既設分	リベラルアーツ学群			49 (57)	33 (25)	6 (6)	10 (6)	98 (94)	0 (0)	310 (310)
		芸術文化学群			18 (18)	7 (7)	8 (8)	3 (3)	36 (36)	6 (6)	212 (212)
		ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類			11 (11)	14 (14)	1 (1)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	100 (100)
		アビエーションマネジメント学類			6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	113 (113)
		健康福祉学群			18 (18)	10 (10)	1 (1)	8 (8)	37 (37)	0 (0)	163 (163)
グローバル・コミュニケーション学群 グローバル・コミュニケーション学類			13 (13)	9 (9)	3 (3)	1 (1)	26 (26)	0 (0)	96 (96)		
航空・マネジメント学群 航空・マネジメント学類			11 (11)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	19 (19)		
計			126 (134)	80 (72)	21 (21)	25 (21)	252 (248)	6 (6)	— (—)		
合計			131 (138)	83 (75)	21 (21)	28 (24)	263 (258)	6 (6)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		160 (160)	104 (104)	264 (264)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)	1 (1)	8 (8)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		167 (167)	105 (105)	272 (272)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	197,685.04 m ²	0 m ²	0 m ²	197,685.04 m ²					
	運 動 場 用 地	60,289.34 m ²	0 m ²	0 m ²	60,289.34 m ²					
	小 計	257,974.38 m ²	0 m ²	0 m ²	257,974.38 m ²					
	そ の 他	21,493.13 m ²	0 m ²	0 m ²	21,493.13 m ²					
	合 計	279,467.51 m ²	0 m ²	0 m ²	279,467.51 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		120,732.45 m ² (120,732.45 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	120,732.45 m ² (120,732.45 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	231 室	61 室	69 室	27 室 (補助職員 22人)	15 室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 教育探究科学群 教育探究科学類		室 数 16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	教育探究科学群 教育探究科学類	97,538 [14,420] (96,558 [14,220])	3,607 [2,916] 3,602 [2,916]	2,809 [2,739] (2,809 [2,739])	1,796 (1,746)	0 (0)	0 (0)			
	計	97,538 [14,420] (96,558 [14,220])	3,607 [2,916] 3,602 [2,916]	2,809 [2,739] (2,809 [2,739])	1,796 (1,746)	0 (0)	0 (0)			
	図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	4,477.07 m ²	1,024		349,525						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	3,095.70 m ²	野球場1面、テニスコート1面、アーチェリー場1か所、多目的グラウンド1か所、ゴルフ練習場1か所、バレーボールコート1面、弓道場1か所、トレーニングセンター1か所、柔道場1か所、剣道場1か所								
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 共同研究費等は大学全体
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		41,561千円	42,392千円	43,239千円	44,103千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	1,000千円	750千円	1,500千円	2,250千円	3,000千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	30,000千円	2,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,430千円	1,330千円	1,330千円	1,330千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大学等の名称	桜美林大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	国際学術研究科 国際学術専攻(博士前期課程)	2	230	—	460	修士(グローバルコミュニケーション) 修士(心理学) 修士(経営学) 修士(老年学) 修士(大学アドミニストレーション)	0.31	令和3年度	東京都町田市常盤町3758番地 東京都新宿区百人町3丁目420番34 東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	
	国際学術研究科 国際学術専攻(博士後期課程)	3	15	—	30	博士(学術) 博士(老年学)	0.36	令和3年度	同上	
	国際学術研究科国際人文社会科学専攻(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	平成7年度	東京都町田市常盤町3758番地	令和3年より学生募集停止
	国際学術研究科国際協力専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(国際協力)	—	平成21年度	東京都町田市常盤町3758番地	令和3年より学生募集停止
	老年学研究科老年学専攻(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(老年学)	—	平成20年度	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	令和3年より学生募集停止
	老年学研究科老年学専攻(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(老年学)	—	平成20年度	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	令和3年より学生募集停止
	大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(大学アドミニストレーション)	—	平成20年度	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	令和3年より学生募集停止
	大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程(通信教育課程)	2	—	—	—	修士(大学アドミニストレーション)	—	平成20年度	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	令和3年より学生募集停止
	経営学研究科経営学専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(経営学)	—	平成21年度	東京都新宿区百人町3丁目420番34	令和3年より学生募集停止
	言語教育研究科日本語教育専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(日本語教育)	—	平成21年度	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号	令和3年より学生募集停止
	心理学研究科臨床心理学専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(臨床心理学)	—	平成21年度	東京都町田市常盤町3758番地	令和3年より学生募集停止
	心理学研究科健康心理学専攻(修士課程)	2	—	—	—	修士(健康心理学)	—	平成21年度	東京都町田市常盤町3758番地	令和3年より学生募集停止

大学等の名称	桜美林大学									
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	リベラルアーツ学群	4	950	—	3,800	学士(学術)	1.02	平成19年度	東京都町田市常盤町3758番地	
	芸術文化学群	4	400	—	1,400	学士(総合文化学) 学士(芸術)	1.00	平成17年度	東京都町田市本町田2600-4	
	ビジネスマネジメント学群	4	400	—	1,600	学士(経営政策学)	1.03	1.03	平成18年度	東京都新宿区百人町3丁目420番34
	ビジネスマネジメント学類									
	アビエーションマネジメント学類	4	80	—	320	学士(アビエーションマネジメント)	1.03	平成20年度		
	健康福祉学群	4	300	—	1,200	学士(社会福祉学) 学士(精神保健福祉学) 学士(健康科学) 学士(保育学) 学士(健康福祉学)	1.00	1.00	平成18年度	東京都町田市常盤町3758番地
	グローバル・コミュニケーション学群									
	グローバル・コミュニケーション学類									
	航空・マネジメント学群									
	航空・マネジメント学類	4	140	—	420	学士(航空・マネジメント)	0.70	0.70	令和2年度	東京都多摩市落合2丁目31番1
附属施設の概要	<p>【桜美林大学総合研究機構】 学術・教育・社会の諸領域にわたる専門的・学術的・総合的研究及びその応用活動を推進し、国内はもとより国際的学術・教育・社会の発展・向上に寄与することを目的とするために本機構を置き、特定の分野についての研究実践及び事業活動を行うために下部組織として下記の研究所・センターを置いている。</p> <p>名称：産業研究所 目的：国内・国外の産業問題の経済次元及び企業経営次元における分析を中心とする社会科学の総合的な研究を行う。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：昭和53年12月 規模等：33.7㎡</p> <p>名称：国際学研究所 目的：学術的研究機関として本学大学院の教育と関連して国際地域文化に関する調査研究を行い、学術及び教育の促進を図る。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成5年4月 規模等：33.7㎡</p> <p>名称：グローバル高等教育研究所 目的：国内外の高等教育に関する調査研究を行い、高等教育の発展に資する。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成9年3月 規模等：33.7㎡</p> <p>名称：老年学総合研究所 目的：学術的研究機関として本学大学院の教育と関連して加齢学、発達学、高齢者問題に関する学際的調査研究などを行い、学術及び教育の促進を図る。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成14年4月 規模等：33.8㎡</p> <p>名称：言語教育研究所 目的：内外の言語教育に関する調査・研究などを行い、学術及び教育の振興と促進を図る。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成15年4月 規模等：33.8㎡</p>									

学群一括募集を実施。2年進級時に学類に所属する。

附属施設の概要	<p>名称：アジア文化研究所 目的：「アジアの中の中国」の観点から単に学術研究に止まらず産・官・学及び国際機関と連携した調査、研究を行い、学術と国際交流の促進を図る。 所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目1番12号 設置年月：平成17年4月 規模等：27.18㎡</p>	
	<p>名称：健康心理・福祉研究所 目的：学術的研究機関として本学大学院の教育と関連して健康心理学及び健康福祉学に関する学際的調査研究などを行い、学術及び教育の促進を図る。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成19年4月 規模等：33.7㎡</p>	
	<p>名称：キリスト教研究所 目的：内外のキリスト教音楽全般に関する調査・研究を行い、それに基づく音楽諸活動を展開することにより、本学の学術及び教育の振興と促進を図り、キリスト教音楽及びキリスト教の発展と深化に寄与する。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成19年4月 規模等：33.7㎡</p>	
	<p>名称：環境研究所 目的：本学の環境に関する教育研究活動に寄与するため、調査・研究を行うとともに、それに基づく学内外における研究会、講演会の開催及びエネルギー環境問題に関する教育の普及啓発を図る。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成22年4月 規模等：22.1㎡</p>	
	<p>名称：パフォーマンス・インスティテュート 目的：パフォーマンス全般にわたって公演・調査・研究を行い、本学の教育及び学術の振興と促進を図る。 所在地：東京都町田市本町田2600-4 設置年月：平成16年4月 規模等：60.5㎡</p>	
	<p>名称：臨床心理センター 目的：臨床心理相談活動を行い、それによって臨床心理学についての研究及び教育を深める。 所在地：東京都町田市常盤町3758番地 設置年月：平成14年4月 規模等：326.0㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(教育探究科学群教育探究科学類)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	教育探究の世界	1①	2			○				1					オムニバス 兼2 兼1
	教育学入門	1①	2			○						2			
	生涯学習入門（生涯学習概論A）	1①	2			○			1						
	基礎ゼミナールⅠ	1①	1				○		2	2		1			
	ピア・ラーニング入門Ⅰ	1②	1				○	○		1		1			
	社会文化学習	1②	1				○	○				1			
	基礎ゼミナールⅡ	1②	1				○	○	2	2		1			
	社会教育入門（生涯学習概論B）	1③	2			○									
	教育調査の基礎	1③	2			○			1						
	教育社会学	1③	2			○			1						
	基礎ゼミナールⅢ	1③	1				○		2	1		2			
	教育心理学	1④	2			○			1						
	教育調査の方法	1④	2			○			1						
	社会文化演習	1④		1			○					1			
	基礎ゼミナールⅣ	1④	1				○		2	1		2			
小計（15科目）	—	—	22	1	0	—	—	—	5	3	0	3	0	兼3	—
学群指定科目	ICTの活用	1①	2				○								兼2
	パーソナリティと適応	1②	2			○			1						兼2
	メディアの活用	1②	2				○						1		兼1
	建学の精神と自己形成	1②	2			○									兼1
	自己探求とキャリア形成Ⅰ	1③	1			○									兼1
	自己探求とキャリア形成Ⅱ	1④	1			○									兼1
小計（6科目）	—	—	10	0	0	—	—	—	1	0	0	1	0	兼3	—
語学技能科目	英語ⅠA	1①	1			○			1	1					兼2
	英語ⅠB	1②	1			○			1	1					兼2
	英語ⅠC	1③	1			○			1	1					兼2
	英語ⅠD	1④	1			○			1	1					兼2
	英語ⅡA	2①	1			○			1	1					兼2
	英語ⅡB	2②	1			○			1	1					兼2
小計（6科目）	—	—	6	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼2	—
専攻科目	ピア・ラーニング入門Ⅱ	1③	1				○			1		1			兼2
	ピア・ラーニング実践研究Ⅰ	1④	1				○			1		1			兼2
	子ども学	2①		2		○				1					
	生涯学習支援論Ⅰ	2①		2		○				1					
	ピア・ラーニング実践研究Ⅱ	2①		1			○			1		1			兼2
	生涯学習支援論Ⅱ	2②		2		○			1						
	教育制度（学校教育）	2③	2			○									兼1
	教科外教育	2③		1		○									兼1
	教育統計法Ⅰ	2③		2			○					2			兼1
	教育工学入門	2③	2			○									兼1
	教育統計法Ⅱ	2④		2			○					2			兼1
	教育認知科学	2④		2		○			1						
	教育方法学	3①		2		○									兼1
社会教育経営論Ⅰ	3①		2		○				1						
高等教育学	3①		2		○			1							
教育評価	3②		2		○						1				

(教育探究科学群教育探究科学類)

科目 区分	授業科目の名称	配当次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教育 学 科 目	社会教育経営論Ⅱ	3②		2		○			1							
	ピア・ティーチング入門Ⅰ	3②	1					○		1			1		兼2	
	質的調査法	3②		2				○		1					兼1	
	教育行動科学	3②		2			○		1							
	教育史	3③		2			○								兼1	
	社会教育実習	3③		2						1						
	ピア・ティーチング入門Ⅱ	3③	1					○		1			1		兼2	
	教育調査演習A	3③		2				○					2		兼1	
	教育組織論	3③		2			○								兼1	
	比較教育論	3③		2			○		1							
	教育哲学	3④		2			○						1			
	社会教育課題研究	3④		2						1						
	ピア・ティーチング実践研究Ⅰ	3④	1						○		1			1	兼2	
	教育調査演習B	3④		2					○					2	兼1	
	研究倫理	3④		2			○							1		
	ピア・ティーチング実践研究Ⅱ	4①		1					○		1			1	兼2	
小計 (32科目)	—	—	9	47	0	—	—	—	4	3	0	3	0	兼7	—	
専 攻 科 目	日本の中の異文化	2①		1		○									兼1	
	発達心理学	2①		2		○			1							
	所得格差	2①		1		○							1			
	ジェンダー論	2①		1		○			1							
	子どもの権利	2②		1		○									兼1	
	社会心理学	2②		2		○									兼1	
	階層格差	2②		1		○							1			
	サステイナビリティ学	2②		1		○									兼1	
	環境教育	2③		1		○									兼1	
	オルタナティブ教育	2③		1		○									兼1	
	科学と社会	2④		1		○									兼1	
	社会問題	2④		1		○									兼1	
	開発教育	2④		2		○					1					
	複言語学	3①		2		○					1					
	集団心理学	3①		2		○									兼1	
	データリテラシー	3①		2				○							兼1	
	異文化理解	3②		2		○					1					
	教育文化論	3②		2		○							1			
	カリキュラム開発	3③		2		○					1					
科学コミュニケーション論	3④		2		○									兼1		
共生社会	3④		1		○									兼1		
小計 (21科目)	—	—	0	31	0	—	—	—	2	3	0	2	0	兼7	—	
探 究 科 学 科 目	基礎ゼミナールV	2①	1					○		2	1		2			
	社会文化研究A	2②		2							1					
	社会文化研究B	2②		2							1					
	基礎ゼミナールVI	2②	1					○		2	1		2			
	自己探求とキャリア形成Ⅲ	2③	1				○								兼1	
	基礎ゼミナールVII	2③	1					○		2	2		1			
	自己探求とキャリア形成Ⅳ	2④	1				○								兼1	
	基礎ゼミナールVIII	2④	1					○		2	2		1			
	キャップストーン	2④	2					○			1					
	自己探求とキャリア形成Ⅴ	3①	1				○								兼1	
専攻演習Ⅰ	3①	1					○		5	3		3				
自己探求とキャリア形成Ⅵ	3②	1				○								兼1		

(教育探究科学群教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	配当次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目 探究科学科目	専攻演習Ⅱ	3②	1				○		5	3		3		兼1 兼1 兼3	
	自己探求とキャリア形成Ⅶ	3③	1			○									
	専攻演習Ⅲ	3③	1				○		5	3		3			
	自己探求とキャリア形成Ⅷ	3④	1			○									
	専攻演習Ⅳ	3④	1				○		5	3		3			
	リサーチゼミⅠ	4①	1				○		5	3		3			
	リサーチゼミⅡ	4②	1				○		5	3		3			
	リサーチゼミⅢ	4③	1				○		5	3		3			
	リサーチゼミⅣ	4④	1				○		5	3		3			
	卒業研究	4④	4					○	5	3		3			
	小計(22科目)	—	24	4	0	—	—	—	5	3	0	3	0		
合計(102科目)		—	71	83	0	—	—	—	5	3	0	3	0	兼22	—
学位又は称号	学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
以下の要領①～⑤を満たし、124単位以上を修得すること。 ①基礎科目から必修科目38単位をすべて修得すること。 ②教育学科目から必修科目9単位すべてを含め、18単位以上修得すること。 ③教育関連諸科学科目から8単位以上を修得すること。 ④探究科学科目から必修科目24単位をすべて修得すること。 ⑤通算GPA1.5以上であること。 履修科目の登録上限：10単位(学期)						1学年の学期区分			4学期						
						1学期の授業期間			7週						
						1時限の授業時間			100分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育探究科学群 教育探究科学類)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 ガイダンス科目	教育探究の世界	教育探究科学群は、自らの探究心や好奇心を基盤に、教育的なアプローチに基づき発信し、自分自身だけでなく、他者や社会に好影響を与えられる者の育成を目指している。「教育探究の世界」では、教育探究科学群における学修をスタートするための科目であり、学群の教職員や教育資源への理解を深めるだけでなく、学群の教育手法などの文化や価値観を学修することで、当該学群における4年間をより良いものとするための入門的な内容を展開していく。	
	教育学入門	本科目では、これから教育学を学ぶにあたって必要となる、教育学に関する基礎的・基本的な知識を獲得すること目的としているガイダンス科目である。そのため、そもそも教育とは何かといった基本的な問いや教育学の様々な分野（教育心理学や教育社会学、学校教育、家庭教育など）についての概略を学び、教育学とはどのような学問なのかを学ぶ。 (オムニバス方式/全14回) (10 堺 完/7回) 教育社会学や教育行政学、社会教育、家庭教育など教育学の各分野に関する講義およびまとめを行う。 (11 宮里 翔大/7回) 学校教育や教育心理学、教育制度、教育方法など教育学の各分野に関する講義およびガイダンスを行う。	オムニバス方式
	生涯学習入門 (生涯学習概論A)	「教育」といえば若年層を対象としたものだと考えられることが多いが、人は一生学び続けるものであり、その対象は学校だけではなく家庭や地域、企業等様々な場所で学習活動が実施されている。「生涯学習入門」では、後に学ぶ「社会教育入門」と併せて、生涯学習の理念と施策や社会教育の意義と展開について学ぶことにより、生涯学習の本質を理解することを目的としている。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅠ」においては、大学での学びや教育探究科学群の理解を中心とした導入的な内容を展開する。	
	ピア・ラーニング入門Ⅰ	ピア・ラーニングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ティーチングの科目と対になって行われるものである。上級生から教えられながら学んでいくことによって、知識を獲得するだけでなく、自身が将来的に教える側になることを学びつつ、「教えて学ぶ」の方法論を修得していくことを目的としている。ピア・ラーニング入門Ⅰでは、その方法論に関する基礎的な内容について取り扱うものとする。	
	社会文化学習	教育探究科学群においては、学生自身の好奇心や探究心に基づく学びを重視している。「社会文化演習」では、文教施設において開講されている既存の教育プログラムや企画などをはじめとして、これらのプログラムなどのみならず、学生一人ひとりの興味及び関心をもとに、フィールドとなる場所や施設を選定し、担当教員の監督のもとに学習計画を構築し、社会的かつ文化的価値を見出すために、事前事後学習と合わせて実践をしていく演習科目である。	
	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅡ」においては、大学で学ぶ上で必須となる基礎的・基本的なリテラシーの養成を行う。	
	社会教育入門 (生涯学習概論B)	「教育」といえば若年層を対象としたものだと考えられることが多いが、人は一生学び続けるものであり、その対象は学校だけではなく家庭や地域、企業等様々な場所で学習活動が実施されている。「社会教育入門」では、「生涯学習概論」に引き続き、社会教育に関する法令や社会教育主事・社会教育指導者の役割、生涯学習社会と学校・家庭・地域などの内容について学び、それらを通じて社会教育の本質について理解を図ることを目的としている。	

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	教育調査の基礎	「教育調査の基礎」では、問題の設定から調査手法の選定、調査を進める手順と分析方法などの考え方と技法の基本的事項について学修する。その際、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について学ぶ。なお、本科目は社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	教育社会学	教育社会学は教育を対象として、社会学的な手法を用いて検討する学問である。本講義では教育社会学の基本的な知識を身につけるとともに、教育のさまざまな側面について社会学的な観点から考察を行うものである。その際、教育社会学の主要研究領域でもある「社会（関係）としての教育」、「教育に対する社会からの影響」、「教育が社会に及ぼす影響」の3つの観点について、日本における具体的な事例を用いて検討を行い、教育社会学がどのような学問であるのかを学んでいく。	
	基礎ゼミナールⅢ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅢ」においては、主として学外の外部リソース（データベース等）を活用しながらの学修方法について、理解を深化を図るべく授業を展開する。	
	教育心理学	教育心理学の講義では、教育心理学が対象とする領域の中でも、教育心理学の基礎（教育心理学史、学習、認知、動機づけ）を概観したのち、学習指導、教育評価、学級集団について学ぶことにより、それらを通じて今日の学習指導や評価、学級経営の問題点や課題について検討することを目的としている。その際、教育現場において生じる諸問題やその背景、心理社会的課題および必要な支援等についても取り扱うことで、実際に教育現場が抱える問題点をより具体的に検討する。	
	教育調査の方法	現代社会において、学ぶ学修分野に関わらず、様々なデータを活用し問題解決をするための技能は必須である。「教育調査の方法」では、教育の現状に関するデータを使用しつつ、問いの立て方や分析方法等について具体的に学修する。その際、調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理)などの内容についてそれぞれ取り扱う。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	社会文化演習	教育探究科学群においては、学生自身の好奇心や探究心に基づく学びを重視している。「社会文化演習」では、文教施設において開講されている既存の教育プログラムや企画などをはじめとして、これらのプログラムなどのみならず、学生一人ひとりの興味及び関心をもとに、フィールドとなる場所や施設を選定し、担当教員の監督のもとに学習計画を構築し、社会的かつ文化的価値を見出すために、事前事後学習と合わせて実践をしていく演習科目である。その際、フィールドとして普段学生が学んでいる地域を超えて、国内の様々な地域を対象とする。	
	基礎ゼミナールⅣ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅣ」においては、自己の興味関心を理解するために、様々な社会問題や社会事象などについてのディスカッションを行い、様々なテーマについて議論を行う。	
学群指定科目	I C Tの活用	社会の情報化が進んでいくなかで、教育においても情報化が着々と進展しており、近年では初等中等学校においてG I G Aスクール構想が発表されるなど、注目度は非常に高い。本科目では、情報化社会における教育の意義などについて学んでいく。また、単に高度情報化の実情を知るにとどまらず、自らがデータリテラシーを持ってI C Tを活用できるようになるために、実際の機材や教育に関わるテクノロジーを実践的に扱う科目としている。	
	パーソナリティと適応	本授業では、人間の発達における「性格・感情・社会性」といったパーソナリティに関連する焦点をあて、それらの理論を学ぶと同時に自己のパーソナリティへの理解を深めることを通じて、自己理解および他者理解を深めることを目的としている。また、学校をはじめ様々な場面で生じる不適応について理論を用いて検討すると同時に、感情に関する理論について様々な角度から学ぶことにより、人間の多様性を理解するための観点についても学んでいく。	

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学群指定科目	メディアの活用	近年、A I (人工知能) は目覚ましい進歩を遂げ、意識的にも無意識的にも日常生活の場面において A I に触れる場面は多くなっている。それに伴って、メディアの活用法やメディアリテラシーの重要度はきわめて高い。教育分野においても A I などを含めた先端技術の進出が目覚ましい。これらのことから、本講義では教育場面における A I の活用やメディアの活用法、今後のメディアを用いた教育方法のあり方などについて、実践的な活用方法等を通じて学ぶことを目的としている。	
	建学の精神と自己形成	本学では「キリスト教精神に基づく国際人の育成」を建学の精神として掲げており、これまでもこの建学の精神に基づいた教育を行ってきた。キリスト教徒は世界人口の約30%に及ぶとされており、キリスト教の価値観や考え方をすることは、グローバル化した現代の社会においては極めて重要である。本授業科目においては、キリスト教を通じて、宗教というものが人間一人ひとりの自己形成に与えている影響に焦点をあてるとともに、建学の精神の理解と深化を通じて、自らの自己形成を考察するものである。	
	自己探求とキャリア形成 I	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることが目的としている。自己探求とキャリア形成 I では、自身のキャリアを考えるための前段階として、キャリアにおける幅広い選択肢の存在を知るために、多様なキャリアを歩んだ実際の事例について学ぶ主たる目的としている。	
	自己探求とキャリア形成 II	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることが目的としている。自己探求とキャリア形成 II ではキャリアにおける幅広い選択肢の存在を知るために、実際に企業等で活躍する事例を対象に学ぶことを主たる目的としている。	
基礎科目	英語 I A	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語 (EAL) コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的 EAL 教授法 (P l u r i T E A L) を使い、履修学生個々の母語 (主に日本語) を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員 (外国人ティーチングアシスタントを含む) の同様な多様な能力を活用した EAL コミュニケーション能力の獲得を目指す。英語 I A では特にスピーキングに焦点をあて、基本的な技能について取り扱うこととする。	
	英語 I B	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語 (EAL) コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的 EAL 教授法 (P l u r i T E A L) を使い、履修学生個々の母語 (主に日本語) を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員 (外国人ティーチングアシスタントを含む) の同様な多様な能力を活用した EAL コミュニケーション能力の獲得を目指す。英語 I B では、英語 I A で学んだ基礎的内容に加え、円滑なコミュニケーションを実施するための準備を行う。	
	英語 I C	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語 (EAL) コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的 EAL 教授法 (P l u r i T E A L) を使い、履修学生個々の母語 (主に日本語) を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員 (外国人ティーチングアシスタントを含む) の同様な多様な能力を活用した EAL コミュニケーション能力の獲得を目指す。英語 I C ではコミュニケーション能力向上のための理論的な学習を主に実施する。	
	英語 I D	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語 (EAL) コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的 EAL 教授法 (P l u r i T E A L) を使い、履修学生個々の母語 (主に日本語) を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員 (外国人ティーチングアシスタントを含む) の同様な多様な能力を活用した EAL コミュニケーション能力の獲得を目指す。英語 I D ではコミュニケーション能力向上のための実践的な活動を主に実施する。	
	英語 II A	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語 (EAL) コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的 EAL 教授法 (P l u r i T E A L) を使い、履修学生個々の母語 (主に日本語) を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員 (外国人ティーチングアシスタントを含む) の同様な多様な能力を活用した EAL コミュニケーション能力の獲得を目指す。英語 II A では英語 I A ~ D の内容を総括し、科目「社会文化研究 A」活用できるような、コミュニケーション能力の養成を目指す。	

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語ⅡB	本科目の主たる目的は、付加言語としての英語（EAL）コミュニケーション能力の育成である。本科目では、複言語主義的EAL教授法（Plurilingual）を用い、履修学生個々の母語（主に日本語）を含む様々な言語及び文化的知識と能力、同時に担当教員（外国人ティーチングアシスタントを含む）の同様な多様な能力を活用したEALコミュニケーション能力の獲得を目指す。英語ⅡBでは「社会文化研究A」において想定される事例をもとに、実践的な学びを展開する。	
専攻科目	語学技能科目		
	ピア・ラーニング入門Ⅱ	ピア・ラーニングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ティーチングの科目と対になって行われるものである。上級生から教えられながら学んでいくことによって、知識を獲得するだけでなく、自身が将来的に教える側になることを学びつつ、「教えて学ぶ」の方法論を修得していくことを目的としている。ピア・ラーニング入門Ⅱでは、幅広い内容に接する機会を多く設け、教員のサポートを受けながら実践する。	
	ピア・ラーニング実践研究Ⅰ	ピア・ラーニングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ティーチングの科目と対になって行われるものである。上級生から教えられながら学んでいくことによって、知識を獲得するだけでなく、自身が将来的に教える側になることを学びつつ、「教えて学ぶ」の方法論を修得していくことを目的としている。ピア・ラーニング実践研究Ⅰでは、学生の興味関心に合わせて内容を絞り込み、教員のサポートを適時得つつ、教えて学ぶを実践する。	
	子ども学	本講義では、「子ども」という存在に焦点をあて、子ども自身や子育て、教育をめぐる様々な問題について考えることによって、子どもとは何か、子どもとはどのような存在なのかを理解することを目的としている。この問いを検討するために、どのような教育が幼児期に望ましいのかについて発達特性との関連について学ぶとともに、幼児教育の歴史や現状、それに基づく課題、諸外国と日本の幼児教育の比較といったテーマについてそれぞれ学んでいく。	
	生涯学習支援論Ⅰ	「生涯学習支援論Ⅰ」においては、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の修得を図ることを目的とした授業を展開する。主な講義内容として、学習支援に関する教育理論及び効果的な学習支援方法並びに学習プログラムの編成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等について取り扱っていく。その際、特に幼児や子どもを対象として授業を進めていく。なお、本科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	ピア・ラーニング実践研究Ⅱ	ピア・ラーニングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ティーチングの科目と対になって行われるものである。上級生から教えられながら学んでいくことによって、知識を獲得するだけでなく、自身が将来的に教える側になることを学びつつ、「教えて学ぶ」の方法論を修得していくことを目的としている。ピア・ラーニング実践研究Ⅱでは、教員のサポートは最低限に抑え、学生間での学び合いを展開していく。	
	生涯学習支援論Ⅱ	「生涯学習支援論Ⅱ」においては、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の修得を図ることを目的とした授業を展開する。主な内容として、学習支援に関する教育理論及び効果的な学習支援方法並びに学習プログラムの編成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等について取り扱っていく。その際、生涯学習支援論Ⅰでは幼児や子どもを対象としたが、当該授業では成人を教育の対象として授業を進めていく。なお、本科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	教育制度（学校教育）	この講義では、日本における学校制度や教育行政についての理念や現状、それに基づく課題等について、特に義務教育段階に焦点をあてて検討を行うことを目的としている。これらについて学ぶにあたって、日本国憲法や教育基本法といった教育関連法規の理念等について学び、義務教育や学校制度、近年の教育制度改革の実施状況などについて学んでいく。また、諸外国の教育制度と日本の教育制度の違いについても概観し、日本の教育制度の特徴を理解する。	
	教科外教育	本講義で対象とするのは、初等・中等教育における「教科」に関する教育以外の教育活動（総合的な学習の時間等）についてである。教科外教育（活動）は子どもの自主性を育て、民主的態度や行動力等を形成する「訓育」の課題を果たすことを主たる任務であると考えられており、教科に関する教育と並んでその重要性はきわめて高い。本講義では、教科外教育全体について概観し、総合的な学習の時間や特別活動などの意義や実際などについて学んでいく。	
教育統計法Ⅰ	「教育統計法Ⅰ」においては、教育に関するデータを中心に扱いながら、統計的な知識やスキルを修得し、公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身につけることを目的としている。具体的には、単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかたについて学ぶ。また、相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念なども取り扱う。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 教育学科目	教育工学入門	近年、急速に発達する教育のオンライン化をはじめとした学習方法の多様化、効果的かつ効率的な教育効果の創出などのため、教育工学的な見地に立ったアプローチが教育活動の中で注目を集めている。本講義では、そのような教育工学に関する基礎的・基本的な知識について学び、教育工学とはどのような学問なのか、また教育工学的なアプローチを用いることでどのように学習行動や学習環境を向上することが可能であるのかについて、体系的に学ぶことを目的とした講義である。	
	教育統計法Ⅱ	「教育統計法Ⅱ」においては、確率や検定をはじめとして、基本統計量や相関係数等といった、主として統計学に関する基礎的な知識の修得を目的としている。特に、教育に関するデータを中心に扱いながら、確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、サンプリングの理論、属性相関係数、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などについて取り扱う。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	教育認知科学	認知科学は情報処理的な観点から、知の働きや性質を理解する学問であり、哲学、言語学、心理学、人工知能学、脳科学などの諸科学と深く関わりつつ成立している学問である。本講義では様々な教育場면을対象に認知科学的な観点から教育について取り扱うことを目的としたものである。その際、見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とかかわるといった、教育にかかわる実際の行動や場면을想定し、それらに関連する理論等について取り扱う。	
	教育方法学	教育方法学は、教育学それに基づいた教育の方法を研究対象とする学問である。本講義においては、教育の方法やその技術に関する基礎的な理論について学び、実際の学習場面における学び方や教え方について検討する。また、従来まで行われてきた教育方法について歴史的な観点から検討しつつ、近年行われているICT等を用いた教育などについても学んでいく。なお、本学群においては「教えて学ぶ」を教育の中心と位置づけていることから、本講義を通じて理論的な教育方法を習得する。	
	社会教育経営論Ⅰ	当該科目においては、多様な主体と連携及び協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等に繋げていくための知識及び技能の修得を図ることを目的としている。また、授業の主な内容として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等、社会教育経営の基礎的な部分を中心に取り扱っていくこととしている。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	高等教育学	高等教育学の講義では、学生自身が実際に学んでいる「大学」をはじめとする高等教育機関をその対象としている。具体的には、大学をはじめとする高等教育機関が成立した経緯やその後の歴史、他国との高等教育制度の比較、高等教育に関連する代表的な理論などについて学んでいく。また、日本の高等教育制度の現状と課題などを取り扱うことによって「大学とは何か、どうあるべきか」という根本的な問いについて、ディスカッションを通じてながら検討していく。	
	教育評価	本講義では、教育評価に関する基本的な知識を学び、実際の評価手法を修得することを目的としたものである。具体的には、教育評価の理論について概観し、学習観と学力評価の関連について学んだうえで、実際に疑似的な課題を用いて教育評価を体験する。また、学校教育における評価の5つの目的（教育行政の点検と改善、学校運営の点検と改善、教育実践・学習指導の点検と改善、学習者による自己評価の促進、家庭や地域に対する情報提供）についても取り扱う。	
	社会教育経営論Ⅱ	当該科目においては、多様な主体と連携及び協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の修得を図ることを目的としている。授業の主な内容として、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際など、社会教育経営論Ⅰで学び得た基礎的な知識を基盤として、より発展的な内容を取り扱っていくこととしている。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	ピア・ティーチング入門Ⅰ	ピア・ティーチングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ラーニングの科目と対になって行われるものである。下級生を教える中で、知識を獲得するだけでなく、伝え方や教え方の工夫による発信力の向上、さらには自らが学んできたことを振り返りを通じ、自らの学びを省察しながら学んでいく科目である。ピア・ティーチング入門Ⅰでは、その省察からの学びに関する基礎的な内容について取り扱う。	
質的調査法	「質的調査法」においては、インタビュー調査をはじめとした質的研究方法について学修し、質的なアプローチを用いた分析ができるようになることを目的としている。その際、教育学分野に関連する内容を調査対象とし、主として、参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、および、ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法などを取り扱う。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 教育学科目	教育行動科学	行動科学は、人間の行動を実証的に研究し、その法則性について解明することを目的としたものであり、心理学をはじめとして社会学、人類学、精神医学といった様々な学問領域の学際的な要素をもつ学問である。本講義では、これら行動科学的なアプローチによって教育を捉え、行動科学の基礎を学びながら、より良い教育活動を展開するためにどのように行動科学的観点を活用することができるのか、という点に焦点をあてて体系的に学んでいく。	
	教育史	現代の教育の在り方を理解する上で、これまでの歴史的な背景を知ることが極めて重要である。当該科目においては、日本における教育史だけでなく、諸外国の事例についても併せてその基礎や特徴的な事例を学修し、教育活動が連続と継続され続けていることを理解することを目的としている。人類の教育的な営みについて、主として西洋の教育史と日本の近代を中心とした教育史を概観するとともに、歴史的なアプローチから理解を深めていく科目である。	
	社会教育実習	「社会教育実習」では、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的とした授業を展開していく。具体的には、地域の社会教育施設等における実習を実施する。また、実習期間は原則として2週間程度とし、現場における実習活動に加え、実習活動の振り返りやラウンドテーブル、実習報告書の作成などの学習活動も含んでいる。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	ピア・ティーチング入門Ⅱ	ピア・ティーチングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ラーニングの科目と対になって行われるものである。下級生を教える中で、知識を獲得するだけでなく、伝え方や教え方の工夫による発信力の向上、さらには自らが学んできたことを振り返りを通じ、自らの学びを省察しながら学んでいく科目である。ピア・ティーチング入門Ⅱでは、学生の興味関心に関わらず、幅広い内容に接する機会を多く設け、教員のサポートを受けながら実際に「教えて学ぶ」を実践することを目的とする。	
	教育調査演習A	本授業では、実際の調査を行うための一連の流れを通じて教育をテーマとした社会調査（量的調査）の過程を学修する。具体には、問い・仮説を設定し、質問紙を作成し、実際に調査（量的調査）を行う。その後、コンピュータを用いてパンチング、集計、統計分析（仮説検証）を行い、最終的に成果を報告書にまとめる。自らの卒業論文等にも活用できる知識や技術を身に付けることを目的としている。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	教育組織論	社会の複雑化にともなって、教育というものの在り方も高度化及び多様化するようになってきた。これを受け、教員だけが教育に携わるのではなく、様々なステークホルダーが関わり、組織やチームで教育を施すようになってきている。こういった社会要因を踏まえ、当該授業においては教育活動を展開する上での組織の役割や、組織としてどのように教育活動をしているかについて学修する。また、自らが実際に教育組織を運営するという観点から、実践的な学びも合わせて展開していく。	
	比較教育論	教育の在り様は各国によってさまざまに異なり、その国の文化やキャラクターを形成していくうえで教育は大きな役割を担っている。「比較教育論」は、国際的な視座から教育について学修を重ね、教育活動の多様性や違いを理解し、教育についてより多角的に理解を深めていく科目である。また、諸外国の教育事情に関する知識だけでなく、比較考察を経て教育に関わる様々な事柄をより深く理解し、改善に結びつけていく観点から学修していくことを目的としている。	
	教育哲学	当該科目においては、教育とは何かという問いに対する理解度を深め、教育学的な物の見方を養い、視座を高めていくことを目的としている。教育哲学の成り立ちから、教育哲学や教育思想の類型などについて学修する過程において、教育の目的や教育活動といった教育に関する事象について哲学的に考察をする科目である。また、歴史的なことを学修するだけでなく、現代の教育現場においてどのように、哲学的観点が活かされているのかについても考察をしていく。	
	社会教育課題研究	「社会教育課題研究」では、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的とした授業を展開していく。また、当該授業は社会教育士資格を取得するための総括的な位置付けの科目でもある。具体的には、学生各自が今日的な社会教育を巡るテーマに関する研究を実施し、プレゼンテーションやレポート作成等を通じた成果報告を行うものである。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
ピア・ティーチング実践研究Ⅰ	ピア・ティーチングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ラーニングの科目と対になって行われるものである。下級生を教える中で、知識を獲得するだけでなく、伝え方や教え方の工夫による発信力の向上、さらには自らが学んできたことを振り返りを通じ、自らの学びを省察しながら学んでいく科目である。ピア・ティーチング実践研究Ⅰでは、学生の興味関心に合わせて内容を絞り込み、教員のサポートを適時得つつ、教えて学ぶを実践する。		

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育学科目	教育調査演習B	本授業では、社会調査における質的調査の技法を用いて学生の生活実態の特徴を把握する。リサーチ・クエスチョンの生成を踏まえつつ、履修生の関心も考慮に入れた調査対象を観察する。また、調査対象者へのインタビューも併せて実施する。これら質的調査の実践を通して得られたデータの意味を解釈し、問いとデータと考察の関連性を検討し、最終的に実習の内容を最終レポートにまとめる。自らの卒業論文等にも活用できる知識や技術を身に付けることを目的としている。なお、当該科目は、社会教育士資格の取得に必要な科目である。	
	研究倫理	研究を行うにあたって、公正かつ責任ある研究活動を行うことが研究者だけでなく学生にも求められている。本講義では、そのような研究倫理について学び、なぜ公正かつ責任のある研究を行う必要があるのかを理解することで、卒業研究をはじめとする研究活動を行うための事前準備を行う。また、研究不正やアカデミックミスコンダクトの事例について学び、いつでも誰にでも起こりうる可能性があるものとして捉え、それを防ぐためにはどのような対応が必要なのかを学ぶ。	
	ピア・ティーチング実践研究Ⅱ	ピア・ティーチングは、教育探究科学群のコンセプトである「教えて学ぶ」をより立体的に実践する科目であり、ピア・ラーニングの科目と対になって行われるものである。下級生を教える中で、知識を獲得するだけでなく、伝え方や教え方の工夫による発信力の向上、さらには自らが学んできたことを振り返りを通じ、自らの学びを省察しながら学んでいく科目である。ピア・ティーチング実践研究Ⅱでは、教員のサポートは最低限に抑え、学生間での学び合いをより高度に展開していく。	
専攻科目	日本の中の異文化	グローバル化は一層進展し、日本に住む外国人の数は増加していることから、様々な価値観をもつ人が同じ社会生活を営むことが一般的となり、日常的に異なる文化へ触れ合う機会が増加している。しかし、それと同時に日本社会への不適応や差別といった問題も散見されるようになり、日本における新たな課題の一つとなっている。本科目では、日本の中にあるこの「異文化」について様々な角度から学ぶことによって、実際の社会における課題を解決に導くための方策を提案することができるようになることを目的とする。	
	発達心理学	人間とは、生涯を通じて成長し続けるものであり、各発達段階によって様々な課題を解決しながら成長を続けていくものである。本科目では、人間の発達そのものに焦点をあて、特に各発達段階において教育はどのような役割を果たすのか、そしてどのような発達課題を設定し、どのような支援を行う必要があるのか、を検討していく。また、授業においては、人間の発達の特徴と原理について、各発達段階にみられる心理学的問題に焦点を当てた事例について取り扱っていく。	
	所得格差	近年、実質所得の格差や世代間の格差が増加し、生活水準の低下などの問題が叫ばれるようになっている。しかしながら、この問題は日本固有の問題ではなく、世界的にも大きな問題となっているテーマである。本講義では、日本国内外の所得に関連する格差が生じる要因やその実態、それに対応する解決策を模索する。その際、先進国で生じる所得格差と発展途上国で生じる所得格差の構造的な違いなどについても検討し、所得格差によって教育分野に生じる問題などについても取り扱う。	
	ジェンダー論	グローバル化が進展し、多様性を尊重することが求められるようになっている現代社会において、ジェンダーに関する問題への関心度は非常に高い。現代社会に生きる私たちは、性別（ジェンダー）によってどのような影響を受けているのか、日常にあるジェンダーに関連する問題を検討することによって、現代日本で生じる問題について具体的な内容を取り上げて検討する。また、教育に関する場面でもジェンダーに関する様々な問題が生じており、それらを解決するための手立てを授業を通じて検討する。	
	子どもの権利	中世の社会では「子ども」という概念は存在せず、「小さな大人」として配慮の対象とはなっていなかった。しかし、今日では「子ども」という概念が確立され、子どもがもつ権利を尊重すべきであるという理解が一般的となっている。本講義では、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」の内容を中心に、子どもの権利が確立されるまでの経緯を理解するとともに、子どもにはどのような権利が保障されているのかについて学んでいく。	
	社会心理学	社会心理学は心理学の1つの領域であり、2人以上の人間がいるときに生じる社会現象(相互的影響)について取り扱う学問である。本科目においては、社会心理学の研究領域の中でも、社会的認知・自己・対人魅力の3つの領域を主として取り扱い、基礎的・基本的な知識を身につけることを目的とする。その際、実際に社会心理学における調査や実験、テストなどの体験も交えつつ、実際の社会場面を想定しながら授業を展開することとする。	
	教育関連諸科学科目		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 教育関連諸科学科目	階層格差	社会格差や貧富の格差の拡大が叫ばれる中で、その大きな要因として階層格差の問題が取り上げられるようになってきている。また、このような階層格差は教育に関連する分野にも広がっており、大学進学率などにも影響を及ぼしている。本講義では、現在社会において生じている階層格差の問題を議論するにあたって、社会階層論や社会移動論について学び、先に述べたような教育に関連するトピックを用いて現代社会の状況について検討するとともに、その格差を解消するための試みなどについても取り扱う。	
	サステナビリティ学	サステナビリティは持続可能性を意味するものであり、文部科学省科学技術・学術政策研究所の科学技術白書「2040年の未来予測」において示された4つの価値の一つに含まれており、これからの社会を生きるために必要な価値観である。本講義では、一般に浸透しつつあるサステナビリティについて、その理念や国内外での実際の取り組みなどについて検討するとともに、SDGsや類似する他の概念との関係性などについての整理を行うことで理解を深める。	
	環境教育	近年、環境教育に対する関心が高まっており、学校を始めとする様々な場所で環境教育が盛んに実施されている。本講義では、現在様々な角度から実施されている環境教育に関する取り組みなどについて学習し、環境教育の中でも生活環境や社会環境といった環境教育に関する諸分野についても併せて検討する。また、日本では高度経済成長期以後に大きな社会問題となった公害問題なども用いながら、環境教育のあり方やその実施方法などについて考察する。	
	オルタナティブ教育	オルタナティブ教育は、学校教育法第一条に規定されるいわゆる「一条校」ではない教育機関等において、学校教育の代替として実施される教育を指す言葉である。近年、中等学校に適応できない子どもを受け入れ先として、また従来実施されてきた教育観とは異なるアプローチを用いた教育機関として、オルタナティブ教育（機関）が日本でも着目され始めている。本講義では、日本におけるオルタナティブ教育の実態を学ぶために、実際に行われている教育内容や教育方針、そこで学ぶことそのものの利点や欠点などを含めて幅広く理解することを目的としている。	
	科学と社会	科学技術の進化が進むにつれて、科学と社会との関係性はより一層深まっている。それに伴って、従来想定していなかった課題を社会に投げかけることも少なくない。本講義では、科学と社会との関係性について学ぶとともに、科学技術の進歩が社会にもたらす様々な影響について検討する。併せて、科学技術の発展が社会システムの一部ともいえる教育に与えた影響についても検討することで、教育的な観点から、科学と社会との関係性を学んでいく。	
	社会問題	私たちの日常には様々な社会問題があり、それらの問題に対して様々なアプローチからの取り組みが実施されている。本講義では、特に日本国内において深刻化する社会問題について検討することで、その根本的な原因や解決策などについて探究する。その際、特に教育とのかかわりの深いトピックである、教育や子育てに関連する問題などについて取り上げ、いじめや引きこもりといったテーマに扱いながら、社会の矛盾等によって生じる様々な問題について取り扱う。	
	開発教育	近年のグローバル化とそれに伴う経済と効率を重視する考え方は、経済的格差、環境破壊、人権侵害といった様々な不平等を生み出すものとなり、平和で公正な社会づくりの阻害要因ともなっている。「開発教育」の授業においては、文化や民族等の違いに関わらず、この社会に生きるすべての人々が、公正かつ公平で持続可能な社会づくりをすることができるように、学生一人ひとりが積極的な学習参加からその問題解決方法を模索していくものである。	
	複言語学	本科目では、複言語主義及び複文化主義の概念の理解を目的に、多文化・多言語社会における様々な側面から人間の営みを考察する。複言語主義では、社会の多様性、及び個人とその接点を認識しつつも、個人が有する多様な言語的及び文化的知識と能力の運用能力と実践に視点を置くものである。複言語主義及び複文化主義の概念を考察するにあたり、その観点には国内外における社会的多様性の受容のあり方や付加言語教育手法などの事例を挙げ、様々な社会的実践の在り方を存在論や認識論の視点と共に探究する。	
	集団心理学	本講義では、実社会における社会現象やそれらに関わる人々の心理に焦点をあて、個人に対する社会からの影響や相互関係を心理学的に捉えるための学問である「社会心理学」の中でも、特に「集団」に焦点をあてて展開するものである。具体的には、個人が他者や集団、社会などからどのような影響を受けるのかという「社会的影響」について理解するために、個人レベル・対人レベル・集団レベル・社会レベルそれぞれの段階での理論について検討する。	
	データリテラシー	現代社会においては、データはより身近になっており、専門的な知識がさほどなくとも、多くの情報が容易に集まるようになってきている。そのため、情報の収集よりも、データをどのように活用し、社会にみせていくかといった点が重要になっている。「データリテラシー」の科目においては、データの理解と活用に関心をあてる。種々のアプリケーションを用い、自らのアイデアや研究成果をより分かりやすく可視化できるようにすることを目的として授業を展開していく。	

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育関連諸科学科目 専攻科目	異文化理解	異文化の存在の認識とその理解は、グローバル化や情報化が高度に進んだ社会において極めて重要である。教育的な営みに携わる者にとっても、外国の文化を背景とする人や、自身の文化圏と異なる人と接することは多く、相手によく物事を伝える上で、相手の文化的背景に配慮できることが望ましい。したがって、当該科目においては、異文化理解やコミュニケーションについて学修し、教育的な活動の場で実践できるようにすることを目的として授業を展開する。	
	教育文化論	その国の文化を伝承し、維持、発展していくにあたり、教育の果たす役割というものは極めて大きい。また、文化は国のみならず、組織や団体、グループの価値観や規範意識を表す際にも用いられているなど、社会全体においてその意義は大きい。教育文化論の講義では、文化を継承・創造するための教育という立場と、教育を文化として捉えて検討するという2つの観点から検討を行い、それぞれの観点からみた教育について検討することを目的としている。	
	カリキュラム開発	「カリキュラム開発」の講義では、教育学および行動科学的なアプローチに基づき、効率的・体系的な教育プログラムをどのように展開するのか、について学ぶ講義である。その対象となるのは、学校におけるカリキュラムだけではなく、社会教育等を対象とした教育プログラムを含めたものであるが、単なるイベントや企画としてではなく、学習成果とそのエビデンスを伴う教育プログラムを開発するために、実践的な観点から授業を効果的に展開する。	
	科学コミュニケーション論	科学コミュニケーションとは、専門家でない人に対し科学的なトピックを分かりやすく伝達するのか、を対象として取り扱うものである。そのため、本科目では、エビデンスを有する科学的な情報を、どのように分かりやすく世間に広く伝えるのかという問題意識をもって授業を展開していく。すなわち、難しいものを簡単に伝えるためにはどうすれば良いかという点について、科学コミュニケーションの理論を学ぶとともに、具体的な情報発信の方法を理解し実践するものである。	
	共生社会	「共生社会」の講義では、多様性を尊重する社会を実現するために必要な理念を学び基本的な知識の獲得を目指すものである。とりわけ、本講義では、教育的な場面における取り組みに着目し、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念や実際に行われている教育活動についても学び、教育的な営みから共生社会の構築に資する者の育成を企図するものである。また、日本が共生社会を目指す上での諸問題についても議論し、その解決策を模索する。	
	基礎ゼミナールV	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールVI」においては、自己の興味関心を明確化するために、社会問題などに対する簡易的な調査を実施するための準備を行い、実際に調査を行う。	
	社会文化研究A	教育探究科学群の「教えて学ぶ」というコンセプト、そして探究のフィールドは日本国内に限定したのではなく、世界全体を対象としている。「社会文化研究A」においては、多文化と多様性の文化が根付く、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバーにおいて実施する科目である。本科目では、既存の学習プログラムを活用するだけでなく、教員の支援を受けながら学生自らが学習計画を立案し、探究的な学修を展開することを目的とした科目である。	
	社会文化研究B	教育探究科学群の「教えて学ぶ」というコンセプト、そして探究のフィールドは日本国内に限定したのではなく、世界全体を対象としている。「社会文化研究B」においては、「社会文化研究A」の対象であるカナダ・ブリティッシュコロンビア州だけでなく、日本国内やアメリカ等の国内外の学習資源を用いて、既存の学習プログラムを活用するだけでなく、教員の支援を受けながら学生自らが学習計画を立案し、探究的な学修を展開することを目的とした科目である。	
	基礎ゼミナールVI	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールVI」においては、自己の興味関心を明確化するために、社会問題などに対する調査を実施し、その結果を発表する。	
	自己探求とキャリア形成Ⅲ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフストーリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的としている。自己探求とキャリア形成Ⅲでは、キャリアを検討するフィールドが国内だけでなく、海外にも及ぶことを、実際の事例に基づいて理解することを主たる目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 探究科学科目	基礎ゼミナールⅦ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的・基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅦ」においては、来年度から本格的に進める研究活動の研究分野やテーマ設定のための準備を行い、自己の興味関心を明確化する。	
	自己探求とキャリア形成Ⅳ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的としている。自己探求とキャリア形成Ⅳでは、実際に学生一人ひとりが今後のキャリアを検討するための事前準備を行い、キャリアに対する意識の向上を目的としている。	
	基礎ゼミナールⅧ	基礎ゼミナールでは、教育学の中でも様々な分野や研究アプローチを持つ教員に触れながら、その中で学生自らの興味関心を形成し、自主的な学びを促進することを目的とした科目である。併せて、大学生活を通じて研究・学修を行うための基礎的・基本的技能を身につけ、3年次より本格的に実施する研究活動への準備を行うことを目的としている。「基礎ゼミナールⅧ」においては、これまでに修得してきたことを総括するとともに、来年度から実施する研究活動に向けて研究分野を決定し、テーマ設定の準備を行う。	
	キャップストーン	本科目は、教育の質保証と学習成果の明確化の観点から、主に1年次及び2年次に履修してきた、教育学を中心とした教育探究科学群の学修内容や学修方法にて、確かな理解を促す科目としてすべての学生が必ず受講すべき必修科目として設定している。入学後2年間にわたる総括的な学修内容に加え、3年次以降の学修に備える内容を有したものとされている。これに加えて、授業内外の学修活動において、当該学群の学生として当然理解しておくべき事柄に関する到達度を測定する課題を多数含むものとなっている。	
	自己探求とキャリア形成Ⅴ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的としている。自己探求とキャリア形成Ⅴでは、自らの将来について具体的に検討をしながら、具体的な将来像をイメージできるようにする。	
	専攻演習Ⅰ	専攻演習は、1・2年次で実施をしてきた基礎ゼミとは異なり、各学生が興味と関心を抱くある特定のテーマに基づき、他の学生や各分野に精通する教員と学修を進めていくものである。教育探究科学群において必須となる卒業研究、そして卒業研究に至る4年次のリサーチゼミへ橋渡しをする位置付けである。「専攻演習Ⅰ」においては、主として発表におけるプレゼンテーションなどを通じて、学生一人ひとりのテーマをより明確にするために、まずテーマの設定を中心に行うものとする。	
	自己探求とキャリア形成Ⅵ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリア教育のみに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてる。自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的とする科目である。自己探求とキャリア形成Ⅵは、主に国内外の事例を踏まえながら、自己のキャリアを達成するための方法について検討することを目的としている。	
	専攻演習Ⅱ	専攻演習は、1・2年次で実施をしてきた基礎ゼミとは異なり、各学生が興味と関心を抱くある特定のテーマに基づき、他の学生や各分野に精通する教員と学修を進めていくものである。教育探究科学群において必須となる卒業研究、そして卒業研究に至る4年次のリサーチゼミへ橋渡しをする位置付けである。「専攻演習Ⅱ」においては、専攻演習Ⅰにおいて明確化した自らのテーマについて情報収集や調査等を行い、より具体的な調査方法等について検討する。	
	自己探求とキャリア形成Ⅶ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的としている。自己探求とキャリア形成Ⅶは、自らの興味関心が近い学生同士での対話を通じながら、具体的なキャリア像を構築するための事前準備を行うことを目的としている。	

(教育探究科学群 教育探究科学類)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 探究科学科目	専攻演習Ⅲ	専攻演習は、1・2年次で実施をしてきた基礎ゼミとは異なり、各学生が興味と関心を抱くある特定のテーマに基づき、他の学生や各分野に精通する教員と学修を進めていくものである。教育探究科学群において必須となる卒業研究、そして卒業研究に至る4年次のリサーチゼミへ橋渡しをする位置付けである。「専攻演習Ⅲ」においては、これまでのゼミ活動における過程で作成した自らのテーマに即した成果物などについて議論し、発表をしていく中で卒業研究の具体的なイメージづくりを行う。	
	自己探求とキャリア形成Ⅷ	教育探究科学群におけるキャリアデザインは、就職やその準備のためのキャリアに特化するのではなく、自らの生涯や人生の中で何をすべきかという、より広い意味でのキャリアに焦点をあてている。その中で、自己分析に加え、すでにキャリアを築いている様々な人たちのライフヒストリーの考察を通じ、自らの視野と将来の選択肢を広げることを目的としている。自己探求とキャリア形成Ⅷは、自らの興味関心が近い学生同士での対話を通じながら、具体的なキャリア像を協働で検討し、実際の活動に取り組んでいくことを目的としている。	
	専攻演習Ⅳ	専攻演習は、1・2年次で実施をしてきた基礎ゼミとは異なり、各学生が興味と関心を抱くある特定のテーマに基づき、他の学生や各分野に精通する教員と学修を進めていくものである。教育探究科学群において必須となる卒業研究、そして卒業研究に至る4年次のリサーチゼミへ橋渡しをする位置付けである。「専攻演習Ⅳ」においては、テーマの確定だけでなく、自らに合った研究活動の進め方などを検討することを目的として、学修活動を展開していく。	
	リサーチゼミⅠ	教育探究科学群において、卒業研究は必修科目として設定をされており、リサーチゼミは卒業研究の完成に向けた時間として設定されている。リサーチゼミの主たる目的は、リサーチを遂行する力を証明するものとして、卒業研究課題を完結させることにある。これを大前提として、「リサーチゼミⅠ」においては、指導教員や他の学生との議論を通じて、卒業研究の内容を確定させていくとともに、今後のゼミ活動における作業等を計画を構築していく。	
	リサーチゼミⅡ	教育探究科学群において、卒業研究は必修科目として設定をされており、リサーチゼミは卒業研究の完成に向けた時間として設定されている。リサーチゼミの主たる目的は、リサーチを遂行する力を証明するものとして、卒業研究課題を完結させることにある。これを大前提として、「リサーチゼミⅡ」においては、リサーチゼミⅠで確定した、学生自らが設定した卒業研究の課題に関する調査を進め、その進捗について報告等を行うとともに、さらに議論を深化させていくものとする。	
	リサーチゼミⅢ	教育探究科学群において、卒業研究は必修科目として設定をされており、リサーチゼミは卒業研究の完成に向けた時間として設定されている。リサーチゼミの主たる目的は、リサーチを遂行する力を証明するものとして、卒業研究課題を完結させることにある。これを大前提として、「リサーチゼミⅢ」においては、卒業研究の完成を目前とした中で、より質の高いものを制作するために自らの成果のプレゼンテーションを行い、議論していく中でその内容を確定させていく。	
	リサーチゼミⅣ	教育探究科学群において、卒業研究は必修科目として設定をされており、リサーチゼミは卒業研究の完成に向けた時間として設定されている。リサーチゼミの主たる目的は、リサーチを遂行する力を証明するものとして、卒業研究課題を完結させることにある。これを大前提として、「リサーチゼミⅣ」では、リサーチゼミⅠからⅢまでのゼミ活動において修得してきた、卒業研究の完成に向けた議論を踏まえて、加筆修正作業等の最終的な作業を進めていく。	
	卒業研究	「卒業研究」は、教育探究科学群の主たる到達目標である、「リサーチを遂行する力」の獲得を証明するものである。そのため、すべての学生が必ず受講すべき必修科目として、履修を求めものとして設定している。これを踏まえ、当該授業科目においては、初年次からのゼミ活動における様々な議論や調査等により、論文等の執筆に限定することなく、様々な媒体を用いた研究成果物の作成及び発信方法を許容することとしている。これらは基本的にゼミ活動を通じて、学生本人の好奇心や興味・関心によってその内容が決定される。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出取定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人 桜美林学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
桜美林大学				桜美林大学				
リベラルアーツ学群	950	—	3,800	リベラルアーツ学群	<u>900</u>	—	<u>3,600</u>	定員変更(△50)
				教育探究科学群	<u>150</u>	—	<u>600</u>	学部の設置(届出)
				教育探究科学類				
芸術文化学群	400	—	1,600	芸術文化学群	400	—	1,600	
ビジネスマネジメント学群				ビジネスマネジメント学群				
ビジネスマネジメント学類	400	—	1,600	ビジネスマネジメント学類	400	—	1,600	
ビジネスマネジメント学群				ビジネスマネジメント学群				
7Pアプリケーションマネジメント学類	80	—	320	7Pアプリケーションマネジメント学類	80	—	320	
健康福祉学群	300	—	1,200	健康福祉学群	300	—	1,200	
グローバル・コミュニケーション学群				グローバル・コミュニケーション学群				
グローバル・コミュニケーション学類	250	—	1,000	グローバル・コミュニケーション学類	250	—	1,000	
航空・マネジメント学群				航空・マネジメント学群				
航空・マネジメント学類	140	—	560	航空・マネジメント学類	140	—	560	
計	2,520		10,080	計	<u>2,620</u>		<u>10,480</u>	
桜美林大学大学院				桜美林大学大学院				
国際学術研究科				国際学術研究科				
国際学術専攻(M)	230	—	460	国際学術専攻(M)	230	—	460	
国際学術研究科				国際学術研究科				
国際学術専攻(D)	15	—	45	国際学術専攻(D)	15	—	45	
計	245		505	計	245		505	